

# 教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：福井 美苗

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学, 家族看護学	意思決定, 移行期支援, 相互作用
学位	最終学歴
修士(看護学)	大阪大学大学院医学系研究科保健学博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 視聴覚教材を用いた学習	2020年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いた遠隔実習を行うこととした。プリパレーションの学習については、インターネット上で公開されている動画等を画面共有機能を使用して見せ、内容や方法についての復習を行った。フィジカルアセスメントに関しては、DVD教材を画面共有機能を使用して見せ、復習を行った。看護過程の事例に関しては、紙ベースでの事例の配信前に、DVD教材を見せ、学生が子どもの発達段階を理解しやすいように工夫した。
2. Google Meetを使用した学生と教員の双方向型の実習	2020年5月2020年8月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。 1グループにつき、助教2名体制で実習を行い、事例の看護展開のいては、教員・医療スタッフ役と、患者・家族役に役割分担をした。実習開始までに、履修登録をしている学生をグループの指導用、個人指導用、病室用のGoogle Meetに招待し、ナースステーションと病室を想定した遠隔実習を行った。学生それぞれに事例を割り当て、学生は看護計画を立案し、教員役の教員から指導を受け、患者役の教員を相手に看護援助を実施した。本取り組みを行った学生の実習の学びは、臨地実習に行った学生の実習の学びと同じ内容が挙げられており、遠隔においても質を担保した実習を行うことができた。
3. 小児病棟を再現した部屋でのシミュレーションの実施	2020年5月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。学生が小児病棟の病室を想起しやすいように、看護科学館母性・小児実習室内に模擬病室を再現した。学生がGoogle Meet上で患者の療養環境及び行動・表情がよく見えるよう、患者・家族役の教員はカメラ位置を調整した。本取り組みで学生は遠隔でも患者の言動および療養環境を観察することができ、患者の状態に合わせた個別性の高い看護計画の立案。実施、評価をすることができた。
4. Google Classroomを用いた連絡や課題提出	2020年4月	武庫川女子大学看護学部実習科目「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Classroomを開設し、その中で連絡事項や患者事例、実習記録（Googleドキュメント）を配信し、学生は期日までに記録を提出することとした。学生はパソコン、スマホ、タブレットなど様々なデバイスを使用していたため、実習記録の提出は配信したドキュメントと、配布済みの紙ベースの記録の画像のどちらでも可能とし、学生が課題に取り組みやすいように留意した。Google Classroomを使用することで、遠隔でもすぐに教員が実習記録を見ることができ、リアルタイムな看護過程の指導ができた。
5. Google Classroomを用いた授業動画の配信	2020年4月	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。コロナ渦の影響により対面授業が不可能になったことから、授業動画を配信することとした。履修登録をしている学生をGoogle Classroomに招待し、その中で授業に関する動画や資料を配信した。授業動画は、パワーポイントの録画機能やXsplitを用いて作成した。Google Classroomは、パソコンやスマホ、タブレットなどインターネットに接続可能なデバイスであれば視聴可能であり、各学生が自宅にいながら授業を見ることができるよう配慮を行った。本取り組みにより、外出自粛要請期間でも質を担保した授業の提供を行うことができた。
6. Google Formを用いた双方向性の授業展開	2020年4月	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。本授業内

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
		内容を動画配信した際に、Google Form（アンケート作成アプリケーション）を用いて2、3問の小テストおよび授業の学びや感想について毎回記載を求めた。Google formを用いることにより、授業動画を配信するだけの能動的な授業ではなく、学生も授業内容についての意見を出せる機会を設けることができた。学生からの質問に対して、Google Classroomの限定コメントを通して返答することで、双方向の授業展開を行うことができた。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 武庫川女子大学 小児看護実習 助手	2019年5月2020年3月	小児看護実習指導
2. 神戸大学 小児・家族看護実習 補助	2014年11月2014年12月	小児・家族看護実習指導
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 保健師	2014年4月22日～現在	
2. 看護師	2014年4月22日～現在	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 小児の入院がきょうだいに及ぼす影響-世話する人からみたきょうだいの行動と感情の変化- Children's Behavioral and Emotional Changes During Their Siblings' Hospitalization-Caregiver's Perspective-	単	2016年3月	大阪大学大学院 医学系研究科博士前期課程 保健学専攻, 修士学位論文	子どもの入院中にきょうだいを世話する人の視点から、きょうだいの感情と行動の変化と家族の属性・背景との関連を明らかにすることを目的とし、無記名自記式の調査を行った。統計解析より世話人から見たきょうだいの感情と行動の変化の要因を明らかにした。自由記述ではきょうだいの様子と世話する人が努力していることについてカテゴリを抽出した。きょうだい支援について、多角的なアセスメントの必要性、継続的な病状理解への支援について示唆を得た。
<b>3 学術論文</b>				
1. Related Variables of Behavioral and Emotional Problems and Personal Growth of Hospitalized Children's Siblings: Mothers' and Other Main Caregivers' Perspectives	共	2018年1月1日	INQUIRY:The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing Volume55,1-10	本研究は、きょうだいが入院している子どもの心理的な問題と成長を変数にし、母親と子どもを世話する人の視点から調査したものである。母親と世話する人を対象にChild Behavior Checklist/4-18日本語版と入院児のきょうだいの人格的成長尺度を使用した。それぞれの尺度の得点を従属変数とし、重回帰分析を行った。母親の得点からは、きょうだいの入院による環境の変化が関連していることが分かった。世話する人の得点からは家族の人口学的統計の関連が示唆された。独立変数ときょうだいの心理的変化の関係には、母親の視点と世話する人の視点では違うことが示唆された。共著名：Niinomi K, Fukui M
2. こどもの長期入院に伴う家族役割の変化によるストレスコーピング	共	2016年3月20日	日本小児看護学会誌25巻1号, 29-35	家族を1つのシステムユニットとして捉え、こどもの長期入院に伴う家族役割の変化から生じる家族ストレスと家族のストレスコーピング行動を明らかにすることを本研究の目的とし半構成面接を実施した。その結果、こどもの長期入院による家族役割の変化に伴う家族のストレス要因、それから生じるストレスに対処するための家族のコーピング行動としてそれぞれ7つのカテゴリが抽出された。長期入院する子どもとその家族を支援として、家族がもつストレス要因を除去・軽減させることや家族のストレスコーピング行動を促す支援が示唆された。共著名：福井美苗、本田順子、法橋尚宏
<b>その他</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Parent-child interactions in self-care acquisition of child with chronic condition: A systematic review	共	2020年3月	The 6th International Nursing Research Conference	慢性疾患を持つ子どもがセルフケア獲得の際に生じる保護者と子どもの相互作用についてシステマティックレビューにより明らかにすることを目的とした。多くの文献は思春期の子どもと保護者を対象としたものであった。慢性疾患をもつ子どもは自身の活動や家族の社会的活動の中でセルフケアの獲得を行っていた。保護者の方は、自身が不快に思えよう状況において、子どもの苦痛を最小限にすることに努めていた。医療者は保護者と子どもの関係性を理解した上で、子どものセルフケア獲得の支援を行うべきであると示唆された。 共著名：Junko Honda, Minae Fukui, Miku Yamaguchi, Hitomi Katsuda, Tomoko Yamaguchi, Ikuko Miyawaki
2. The Effect of Siblings Hospitalization on Japanese Children's Personal Growth and Behavioral and Emotional Difficulties from Caregiver Perspective	共	2015年3月15日	19th East Asian Forum of Nursing Scholars	本邦におけるきょうだいが入院している子どもの成長・行動と感情の問題に家族の属性・背景との関連を、子どもを世話する人の視点から明らかにすることを目的とした。世話する人に家族属性とChild Behavior Checklist/4-18日本語版と入院児のきょうだいの人格的成長尺度を使用したアンケート調査を行った。重回帰分析を行った結果、きょうだいの入院期間・きょうだいとの接触頻度・母親との分離体験・子どもの誕生順に関連がみられた。それぞれの子どもの心理状況を母親と世話する人の両者から情報を得てアセスメントする必要があると示唆された。 共著名：Minae Fukui, Kazuteru Niinomi, Yuka Ikegami, Wataru Kiwado, Yuichi Nakayama, Yuko Takashima, Akemi Yamazaki, Chieko Fujiwara
3. Family stress and coping associated with family-role shift during the long-term hospitalization of a child	共	2014年5月25日	35th International Association for Human Caring Conference?	“子どもの長期入院は家族の日常生活や機能に影響する。特に母親が付き添い入院をした場合は特に影響がある。本研究は母大矢が付き添い入院をし、子どもが長期入院した際に起こる家族の役割の変化とそれに伴うストレスとその対処法について明らかにした。半構成的面接を行い、10家族（16人）に調査を実施した。家族の役割の変化には34カテゴリーが抽出された。家族は子どもの長期入院という状況の中、家族のストレスを軽減させるために家族と過ごせる時間を多く作るように心がけていた。医療者は家族が少しでも一緒に過ごせるように柔軟な支援を提供する必要がある。 共著名：Minae Fukui, Junko Honda, Akira Hayakawa, Naohiro HoHashi”
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項